

馬奈木 俊介 編
『エネルギー経済学』
(中央経済社、2014年3月)

望陀 芙美子

近年、エネルギーを取り巻く環境は大きく変化している。特に、エネルギー問題について市場メカニズムを利用した様々な経済政策の導入が進んでいる。たとえば、これまで「自然独占」とみなされてきた産業も、技術の変化により、独占を認めた上で料金規制を行うという規制方式が見直され、可能な限り競争のメリットを生かす「規制改革」が実施される方向にある。世界各国の電気通信産業の規制改革がその好個の一例である。このような公的規制は、費用引き下げのインセンティブを企業に与えず、独占を許すことによって肥大化した企業のいわゆる X-非効率を生むという点からみても、効率性を実現しているとはいえない。それに加えて、過剰な設備投資を生むという Averch-Johnson 効果も指摘されている。このような公的規制が引き起こす非効率を改善するためには、やはり競争原理を導入する必要があるであろう。

本書は、様々なエネルギー問題に関して、技術的に論じると同時に、上記のような市場メカニズムを利用し、教科書として経済学の観点を踏まえた説明を試みている。

本書の構成は、第Ⅰ部「エネルギー政策」、第Ⅱ部「エネルギー資源政策」、第Ⅲ部「環境政策」、第Ⅳ部「環境技術と環境ビジネス」となっており、市場メカニズムとエネルギー政策に関して、近年注目されているトピックを取り上げることで、エネルギー分野における経済政策の導入の必要性を論じた1冊である。以下、本書の内容・特徴を紹介していく。

第Ⅰ部は、第1章「電力・ガスの規制緩和」と第2章「エネルギー消費の削減政策」でエネルギー政策について論じている。第1章では、エネルギー産業における主要な経済政策として電力と都市ガス産業の規制緩和について、経済政策的な知見から現状を述べている。第2章では、エネルギー消費削減のために行われてきた従来の省エネルギー政策について、課題を紹介している。

第Ⅱ部は、第3章「石油の市場と産業」、第4章「シェールガスがもたらしたエネルギー革命」、第5章「バイオマス政策」、第6章「原子力発電」でエネルギー資源政策について論じている。第3章では、我が国において最も利用されているエネルギーといえる石油について、広く経済学的な考察を行っている。第4章では、近年我が国やアメリカで注目されているいわゆる「シェールガス革命」について、技術革新の観点から説明している。第5章では、大気中の二酸化炭素を増加させないと考えられているバイオマスについて、その現状を展望し、あわせてその普及に向けた課題について検討している。第6章では、2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、世界各国の原子力利用が変化したことを鑑み、その効果的な利用に

ついて、経済的視点と技術の側面から紹介している。

第Ⅲ部は、第7章「太陽光発電・風力発電のエネルギー政策」、第8章「排出権取引政策」、第9章「途上国電化政策」で環境政策について紹介している。第7章では、再生可能エネルギー政策について、その現状と仕組みを紹介している。第8章では、地球温暖化対策の主要政策でもある排出権取引の仕組みを紹介している。第9章では、電力利用が途上国においてどのような状況にあるか、その技術的および経済的課題について述べている。

第Ⅳ部は、第10章「環境技術と環境ビジネス」、第11章「スマートメーターと省エネ」、第12章「エネルギー転換と代替技術」、第13章「エネルギー技術のイノベーションと安全性確保」、第14章「エネルギー関連技術・企業への投資」で環境技術と環境政策の関係性を取り上げている。第10章では、再生可能エネルギーとその推進政策について、特に太陽光発電に注目し、その重要性を論じている。第11章では、スマートメーターについて、その国内動向を紹介している。第12章では、エネルギー利用における技術代替性について、その目的と背景について論じている。第13章では、近年注目されている新しいエネルギー技術を取り上げ、いかに安全性を確保すべきかを論じている。本書の最後に第14章では、近年変化しつつある世界のエネルギー情勢を踏まえ、金融機能を利用したクリーンエネルギー関連事業の促進政策について論じている。

本書は、多くの著者による執筆という体裁をとってはいるが、それぞれの専門分野の研究者がわかりやすさと主張の明確さを追求しているため、終始一貫性を保ったエネルギー経済学の入門書となっている。特に、「エネルギーと人間とのかかわりから発生する問題にわれわれが今後どのように対応していくのか」を明らかにするために、エネルギーを経済学の観点と技術的な分析とあわせて論じている点は新しく、本書の刊行の意義は大きい。また、推薦文献や最新のデータを多く取り上げていることからエネルギー経済学に興味を持ち、エネルギー、環境、資源といった問題を学ぶ学生に強く薦めたい良書である。